ひなを楽しむ

―旧家のひな飾り―

平成30年　2月3日(土)～4月8日(日)

享保雛や古今雛など、江戸時代以降の町屋で飾られたさまざまなひな飾りを紹介します。これらの雛は、尾張徳川家に伝えられた、大名家ならではの豪華で格式のある雛とは趣きが異なり、素朴ななかに身近な親しみやすさが感じられます。

江戸時代から昭和にいたるまでの多くの人々が“桃の節供”に飾ってきたさまざまな雛人形・雛道具をお楽しみください。

※所蔵者の表記がない作品は全て徳川美術館所蔵
※「～C」は収集家名を冠したコレクション名。いずれも名古屋市博物館蔵

名　称		時代	世紀	所蔵者
江戸～明治時代のひな				
・享保雛		江戸	18-19	個人蔵
・享保雛		江戸	19	
・古今雛		江戸-明治	19	
・古今雛		江戸-明治	19	
・古今雛		江戸-明治	19	
・古今雛	鈴木綾子氏寄贈	江戸-明治	19	
・有職雛飾り	吉田家寄贈	江戸	19	
・御殿雛飾り	志村家寄贈	明治	19	
明治・大正・昭和時代のひな				
・御殿雛飾り	安場家寄贈	明治43年<1910>		
・御殿雛飾り	小見山家・柴田家寄贈	明治-昭和	20	
・内裏雛飾り	越智恵津子氏寄贈	昭和13年<1938>		
・内裏雛飾り	近藤家寄贈	大正	20	
・有職雛飾り	中村豊子氏寄贈	大正-昭和	20	
・内裏雛飾り	横井家寄贈	昭和30年代<1955-64>		

名　称		時代	世紀	所蔵者

ひなの歴史

・女訓絵入雛遊之記　上	西川祐信画	江戸	寛延2年<1749>	
・骨董集	山東京伝著	江戸	19	
・絵本倭文庫		江戸		
・日本歳時記　4冊の内	貝原好古著	江戸	貞享5年<1688>	
・三ツ会段ひゐな遊び図	歌川国貞(3代豊国)画	江戸	文久元年<1861>	
・花見月鄙世話事	歌川芳幾画	江戸	文久元年<1861>	

各地の郷土玩具 ―徳川義親コレクション―

郷土玩具のなかのひな

大正-昭和　20　個人蔵

・土雛	埼玉県鴻巣市	・土雛	広島県
・土雛	愛知県豊橋市	・竹雛	熊本県
・土雛	富山県	・おぼこ雛	三重県伊勢市
・ヒシ雛	京都市	・裸雛	住吉大社(大阪市)授与品
・瓢箪雛	京都市	・糸雛	鹿児島県
・板雛	京都市鞍馬	・流雛	鳥取県
・銀杏雛	大阪府	・守雛	加太淡嶋神社(和歌山市)授与品
・銀杏雛	大阪府		
・豆雛	大阪府	・紙雛	京都市
・土雛	広島県尾道市	・七夕雛 ・紙雛	長野県

郷土玩具　祭礼・芸能と縁起物

大正-昭和　20　個人蔵

・天神	宮城県仙台市堤	・鯛を抱く犬	和歌山県御坊市
・御幣持狐	京都市	・招き猫	秋田県
・三番叟	愛知県豊橋市	・犬張子	名古屋市
・獅子持	宮崎市(旧佐土原町)	・大黒	兵庫県
・祇園船鉾	京都市	・福人	神奈川県箱根町

愛知周辺の土人形　―名古屋市博物館コレクション―

名古屋市博物館蔵

名古屋

・花魁　野田末吉作　昭和52年<1977>

・名古屋東照宮祭礼山車　野田末吉作　9基　昭和52-56年<1977-81>

猩々車（元町）	林和靖車（伝馬町）	雷電車（和泉町）
二福神車（長者町）	湯取神子車（桑名町）	唐子遊車（宮町）
小鍛冶車（京町）	石橋車（中市場町）	橋弁慶車（七間町）

名　称			時代	世紀	所蔵者
・鷺	桜天神社(名古屋市中区)授与品	6個の内	明治-昭和前期	20	富田C
・五色鈴	洲崎神社(名古屋市中区)授与品	2組	明治-昭和前期	20	富田C
尾北地方					
・不破伴左衛門	犬山市		明治-昭和前期	20	吉田C
・武者	尾北地方		昭和	20	亀井C
・座り狆	小牧市(旧久保一色村)		昭和	20	亀井C
起（一宮市）					
・釜鈴	美江寺(岐阜市)授与品		明治-昭和前期	20	吉田C
・釜鈴	美江寺(岐阜市)授与品　中島一夫作	6個の内	昭和前期	20	安田C
・米俵鈴	美江寺(岐阜市)授与品　中島一夫作		昭和15年<1940>		安田C
・おん馬	真清田神社(愛知県一宮市)授与品	2個の内	明治-昭和前期	20	吉田C
・傘持ち娘	中島一夫作		昭和27年<1952>		安田C
・荒獅子男之助	中島一夫作		昭和27年<1952>		安田C
乙川（半田市）					
・厄除鈴	正法寺(半田市乙川町)授与品		明治-昭和前期	20	吉田C
・鞠猫			昭和	20	亀井C
・虎			昭和	20	亀井C
・ほう子			昭和	20	亀井C
・恵比寿・大黒	杉浦佐市郎作		昭和30年<1955>		安田C
三河地方					
・弁財天	竹島弁財天(八百富神社 蒲郡市)授与品		明治-昭和前期	20	富田C
・蛍狩り	碧南市(旧新川町)		昭和	20	亀井C
・お軽勘平	碧南市		大正	20	
・八重垣姫	碧南市(旧旭村)		昭和	20	亀井C
・景清	碧南市(旧大浜町)		明治-昭和前期	20	吉田C
・勧進帳(弁慶・富樫)	碧南市(旧大浜町)		昭和27年<1952>		安田C
土人形の雛飾り					
・雛揃い	岐阜県高山市	15体	昭和29年<1954>		安田C

お雛さま　豆知識

雛の歴史

雛祭りは、古代中国において３月の最初の巳の日に、水辺に出て穢れや災いを祓う行事が起源と考えられています。この行事は、古く７世紀にはわが国にもたらされ、上巳の節供として３月３日に行われるようになりました。平安時代には宮廷の年中行事として定着し、この日に曲水の宴を催したり、桃酒を飲んだりしました。

また、自分の罪や穢れを、息を吹きかけたり身肌にすりつけて人形に託し、水辺に流す風習がわが国の俗信仰として古代からありました。これとは別に『源氏物語』をはじめとする王朝時代の文学作品の中では、幼い子どもたちの遊びに用いられた人形を「ひいな」と呼んでいます。これらの風習が何時の頃から始まったのかは明らかではありませんが、３月３日の雛祭りの源流となったと考えられています。

江戸時代になると、次第に雛祭りは盛んになっていきました。今日みられるような雛祭りの形式は、江戸時代の初め頃に形成されたと考えられています。

有職雛

「有職」とは、公家社会のさまざまな決まり事を指す言葉です。「有職雛」は、家柄や季節などによって異なる公家の着る装束を正しく考証して作られた雛人形をいいます。

有職雛は、男雛の着ている装束の種類によって、「束帯雛」「直衣雛」「狩衣雛」とも呼ばれます。束帯は公的な儀式の際に着用される礼服、直衣は上級の公家のちょっと晴れがましい平常服、狩衣はカジュアルな装いです。それにあわせて、女雛の装束も正装の十二単や日常の袿などが用いられています。

男雛と女雛の並べ方

伝統的には男雛は向かって右、女雛は向かって左に飾られました。現在の男雛が左、女雛が右とする飾り付けは、昭和３年(1928)に昭和天皇の即位式の時の御真影を参考にして、東京の人形業界がお雛さまの飾り位置を置き換えたことから、普及したためだと言われています。皇室が明治時代に導入した西洋のマナーに基づいていると考えられます。

五人囃子

五人囃子には「雅楽」と「能楽」の二通りがあります。雅楽の五人囃子では、向かって右から鞨鼓･太鼓･笙･篳篥・笛(あるいは鞨鼓･太鼓･鉦鼓･笙･篳篥)が一般的です。七人囃子･八人囃子などの場合も見受けられます。能楽では、謡･笛(能管)･小鼓･大鼓･太鼓の順で並べられます。

御所人形

桐材をベースに胡粉を塗り重ね磨き上げて仕上げられた人形です。子どもの穢れのない表情が表されています。災いを祓い、福を招く意味合いが込められています。

犬張子

犬張子は人に似せた顔をした犬をかたどった一対の置物で、犬筥とも呼ばれます。子どもが誕生すると、その無事の成長を祈って、天児と呼ばれる穢れや災いを祓う意味合いの人形とともに枕元に置かれました。また婚礼の際にも持参され、生涯大切にされました。